

見る楽しみ・買う楽しみ ● キーワードで解く! 女性像の魅力

アートコレクター

12

December
2010
No.23

Artcollector

定価 1,000 円



美しきかな
絵の中の女性たち
100人

中絶集

銀座ギャラリーズ

〈X'mas アートフェスタ 2010〉

この秋注目のアートフェア

ULTRA 003 / プリュス

ロレンツォ・フェルナンデス展

「スペインの現代リアリズム」

今年4月のアートフェア東京で、日本初公開となり話題となったスペインの画家、ロレンツォ・フェルナンデスが、9月、ギャルリーためながでの個展のために来日した。その折にインタビューした内容を織り交ぜながら、彼の作品世界が表す魅力の本質についてレポートしてみたい。



[Venus] 70×100cm



[Tauromaquia] 31.5×42.0cm



[Religion] 73×100cm

1970年にマドリッドで生まれたロレンツォ・フェルナンデスは、14歳からバロック絵画の技法を学び始めた。93年にはアルチュム・ペナ・アカデミーに入学、コンセプチュアル・アートの第一人者であるペドロ・ガルヴァンに師事し、自身のスタイルを確立した。

使い古しの変圧器等。大量消費に供される品々が目にとまる。興味深いのは、こうした現代的で人工的なものが、無機質な存在としてではなく、不思議な生命感を得たものとして登場することだ。そこにはフェルナンデスの、自分を取り巻くものを大切に思う心、愛着心が息づいている。

「デッサンはよくしますか？フェルナンデス(以下F)スケッチはよくします。ペインティングに限らず、描くことが大好きですから。でも、それをそのまま描くのではなく、どのような絵にするかというヴィジョンの中に引き込んで制作します。

今回の個展の出品作を見ると、絵の中にクリムトやマン・レイといったよく知られたアーティストの作品が一部引用されている。とくに多いのが、アンディ・ウォーホルのポップ・アートの引用だ。

「日常的に目にするものをモチーフにしているのに、高尚で豊かな印象を受けます。なぜそういった表現が可能になるのでしょうか。」

F 毎日目にするオブジェクトを、どれだけ美しく描くことが出来るか。そのことが自分の使命だと思っていますし、それが出来る画家こそが、すぐれた芸術家だとも思っています。

フェルナンデスの作品の中心は静物画で、モチーフのほとんどが彼の周辺に存在するものだ。子供のおもちゃや、計器類の文字盤、

ウォーホルは好きなんですか？
F ひとつの時代を築いた業績への尊敬の念はありますが、彼の芸術性を自分の絵にとりこんだり、真似たりするのが目的ではありません。崇高なものであったはずのアートは、ポップ・アートの出現により、日常的で身近なものとなりました。私は、ポップ・アートをマスプロダクションの一つと解釈し、他のオブジェクトを描くのと同じ気持ちで描いて、アートの価値を、本来の崇高なところまで戻したいと思っています。

ポップ・アーティストのリチャ

ード・ハミルトンは、「ポップ・アートは、ウケがよく(大衆的で)、一時的で(その場限りで)、使い捨ての(簡単に忘れられる)、低予算で、大量生産された、若者向けで、気が利いていて、セクシーで、いかさまありの、グラマラスな、金儲け」という言葉を残している。

そこで注目すべきは、フェルナンデスの絵の中で、引用されたウォーホルの絵がどう見えるか、だ。多くの人は、ハミルトンが言ったポップの定義とは相反した、崇高な印象を受けるだろう。じつはそこにフェルナンデスの芸術観が秘

められているのだが、彼はことさらに主張しようとはしない。絵の解釈は見る人にゆだねる、というのが、フェルナンデスの基本姿勢だ。

「リアリズム」と言っても、スーパー・リアリズムのように、写真をなぞり描きしたような絵画からは、フェルナンデスの作品のよ

うな精神性は感じられない。フェルナンデスの作品には、宗教画に近い気高さや神聖さを感じられる。その効果を作り出す大切な要素のひとつが、光の表現だ。

「現代社会はインターネットの普及などによって、膨大な情報が飛び交っている。そういった混

さらに見ていくと、モチーフの置かれた空間の奥行きが、現実ではあり得ない構造になっていたり、微妙に異なる視点がひとつの画面に組み合わされていたりする。フェルナンデスは、遊び心たっぷりに、絵の中で視覚の冒険を試みているのだ。

モチーフに込められたメッセージもまた興味深い。たとえばカリメロやねずみ、ミッキーマウスなどには、大人になることを拒む少年の心や、世の中の将来に対する危機感が表徴される。



「現代社会はインターネットの普及などによって、膨大な情報が飛び交っている。そういった混

日本でも、若い作家の写真絵画がブームの傾向にあるが、あらためて絵画の在り方を考えさせられる、貴重な展覧会だった。

(編集部)

[Viaje imaginario] 100×70cm

[La medicina] 71×100cm

